繪本婦人百人一首千代緑

女児教訓章

以用賢文用

目録

雅樂文賢　伏見宮
六歌仙図　秀逸歌
新古今集　北小路俊
北小路俊　六歌仙
万葉服等　浪子俊
万葉類等　對盞比方
深色秘傳　教様指南
本朝歌道　婦人年中
三神之傳　御所言葉
乞巧星奠　色紙短冊
献備詩歌　書方口傳

六歌仙之圖

婦人優方詞

三十六歌仙之圖

右 松風
右 中納言行平
右 中納言業平朝臣
右 在原業平朝臣
右 源三位頼政
右 源三位頼政
右 赤染衛門

右 菅原道真
右 藤原敦忠朝臣
右 源重之
右 藤原定頼朝臣
右 大中臣能宣朝臣
右 源信明朝臣
右 源宗于朝臣

七夕詩哥歌

右清原元輔
秋の夜の
月の
右藤原興風
秋の
萩の
右藤原仲文
右藤原元真

右藤原元真
右藤原仲文
右藤原兼盛
右大中臣能宣
右源重之
右源順
右紀貫之
右大江千里
右中務

○茶染めのしかた

白きぬの茶のをきるハ絹の糸ゆで法

染の代るハみそ汁と共にわかし

衣紙をとさミの代る　上下ミ紙と毛

かしの皮ふくろ紙代てつけ紙うり屋る

染の代るハ三杯を一合ゝにてとくわ

ゝ染の代るハとすビ　但しあのをあ

又ハろ石と粉にしてふりかけ紙で表四で

表方をとるとあるふくろ紙をしたゝ

色にて染の代るハあをの條をたゝビ

りみ染めをふるりてもりうる志かゆで

すくべしまたのひろ粉をはあをさくべし

茶ぞめ屋ぞめ屋ふるをハ染めをする

おもをとふくにはハ白くあるなり

白絹垢付るハ大こんの志ぼりけてゆで

茶染のおなるあるてふしハ白くなる

○徳色染めのひでん

すこけハいしーむ粉ふうえとおーハ

ふくとゝ紙のりおとゝ二つん染くう

紅ゝうんハトどうゝんにてをあゝ上

小すりうとうをくめうゝんおハ染ゝ

茶色ハあゝふむをゝしかさのあくと

おえくろおーまをくそむゝうり

うす黄ハ松のちをうみすびのゝ紙ゝ

とやきをゝとをようくゝうゝあゝとをて

染ゝーかきなるわゝ紙あをて染ゝー

とびいろハりかハふく一をんをやあに

ぐーがひとまを二三つん染てゝあふゝう

なんとあにゝきゝてゝそびゝうり

りきハ紅色のゝをかりゝびゝうんと染

ゝろ茶ハもかをにくゝをんん染とゝハ

だゝうふゝうんをゝく染ゝなり

天智天皇

秋の田の

かりほの

庵の

苫をあらみ

わが衣手は

露にぬれつつ

持統天皇
春ハ
夏ハ
白
秋
冬
右紀貫之
左柿本人麿
右伊勢
左凡河内躬恒
柿本人麿

山名赤人
田子のうら
うち出でて
見れば
白たへの
富士の高ねに
雪は降りつつ
右山名赤人
左中納言家持
世の中は
つねにもがも
なぎさこぎ
あまの
小舟の
綱手かなしも
右僧正遍昭
左在原業平朝臣
猛丸左史
奥山の
紅葉踏
分
なく
鹿の
声聞く時ぞ
秋は
悲しき

中納言家持
右紀友則
左素性法師
安倍仲麿

みちのくの
山ゆき
さくら
かな
これ
の
松を
ふく
しぐれ
きく
左中弁言直補
若中納言為忠
あふことの
なくい
ま
人をも
恨
うらむ
ぎり
ま
相撲法師
いつの
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま

伊勢の
ちひろ
ちはや
ふる
神
代も
聞
かず
たつた
川
の
あやぐ
左権中納言教忠
右兼原元
かくばかり
ふる
ふる
世の中
よ
うら
やま
しく
も
もえる
月れ
小野小町
花の
色
うつりにけりな
いたづらに
わが
身
世
ふる
ながめ
せしまに

左源左忠列右
右壬生忠岑
左斉宮女御
右大中臣敦基
左
和田乃原
十郎
人はつげの枕

僧正遍昭
天津風
雲の
かよひじ
吹とじよ
乙女の
すがた
しばしとどめむ
光孝天皇
君がため
春の野に
出て若菜
つむ
わが衣
に雪は
降りける
左源宗于朝臣
山里は
冬ぞさびしさ
まさりける
人目も
草も
かれぬと
思へば
右源信明朝臣
今
ひとたびの
逢ふことを
人づてに
知るよしもがな

中納言行平
陽成院

左近
左衛門仲文
左坂上是則
右衛門元真
河原左大臣
在原業平朝臣

右中将
秋うせの
左平兼盛
伊勢
那波ぐさ
うらぶれ
ありつる
なのそもの
このよを
とぐらを
よるやの
右大将忠見
左大中臣能宣朝臣
藤原敦忠朝臣
恋の紅
きゝ
ふるさとや
長のもし
人めよぐらん

○源氏文字
久佐里

源氏のもぐ
きてやさし
紅たけるのく
清し胡蝶よ
うれしきもえ
し筆あく
は恋うれ
えのく宮殿

元良親王

文屋康秀

吹からに
秋草
くさ
きの
ふかれば
むべ山かぜを
あらしといふらん

素性法師

今こむと
たのめしよりは
出る月の
まちいでつるかな

大江千里

月見れば
ちぢにものこそ
かなしけれ
わが身ひとつの
秋にあらねど

菅家

三條右大臣

貞信公

中納言兼輔

源宗于朝臣
山がつは
冬ぞ
さびしさ
まさりける
人めも草も
かれぬと思へば
元河内守頼
あるかのごとく
わらや
神楽
とたまとゝ
ゆるぎの花

壬生忠岑

元河内新旧

やまとふみ
しらべ
をれば七夕の
ぬれしもの
かぜぞ
もゝ
ゝ
からくる

能因法師

秋のよぶ
なるたの
ものゝ
りの合の
かげ
ゝ
ゝ
ゝ

中務卿親王

七夕の
あ波の川
中れ
ぬらと
なるらん

後二條院

孫風興風
誰とのも
しるへ
をむ
ふるさと
松もむの
友なる

為世卿

天の川
かさだの

乙明卿

玉のと
秋

紀貫之
をいざ
ん
ど
ゆるさと
花そむの
匂ひ

小宰相

秋風にたなびく雲のたえまより
もれいでる月の影のさびしさ

民部卿三位為範

五の川水の
きりひしゝぬ
あつせいもそも
なりゝゝ

清原深養父

夏の夜は
まだ宵なから
あけぬるを
くものいづこに
月やどるらん

在原業平

わがゝる夜の
ゆめ成
ゆめ成
ゆめ成
なりまさる
うか

文屋朝康

出ゝ雲ゝ
ゝ雁ゝ
ゝ雁ゝ
ゝ雁ゝ
ゝ雁ゝ
秋の野に
つゝぬさ
おぞ
ちりこまる

小弁

桂大納言実家

宮廷

人のいのち

長家

行家

参議等

人のこひしき

陸奥國

平兼盛

お茶宮河内

清原元輔

経継
安加門院累
壬生忠見

持大納言定家
平重時
中納言敦忠

定家
くれゆくば
なほ
なつかしの
ことわり
の川
みうけ
くさの
あの
おもし

國道
なのはの川
秋ふかしら
こころの
ゆく
ゆくへ
もしらみ
しらく
なりぬ

今川了俊
らうえい自分
いはむ制河
乃条
一常にんぎし
かくはかなき女
のこころ
なり往ざるゆ
一うろ紀女壹
乃文書人あり

たのしむ
一おさないのうちは
しそだてのうちは
ず期をゆくと
まもるべきこと
ひろ事
一大事とも存
なくくちとけ
ノめくらるゆ
一父母のふうた

文屋康秀

猿丸太夫

大納言公任

滝の音は
たえて久しく
なりぬれど
名こそながれて
なほきこえけれ

我も智あり
とゆりしまま
一世家内つに
対面とて人
も側をく
なりしの
一我が傍とえ
らどあるひい
ろ或ふ事
の事

一下人の言葉
とりなす人ど
もつひ
ひさるの
一男性ふまま
ありて人の後
をひろの
一徒ふ体
して他人
なのざりをを

小式部内侍
大江山

伊勢大輔

清少納言

長楽法師
九京左大臣道雅

檀中納言定家

三條院

家のうち
まづ三ぢくびし
男はかうの
ふくまれ
ど父母ねり
ゆくゑしれず
きづくえん
うちなれば
ちりとそ
ちとせ光て

良運法師

けぶりさふ
ゆくゑ
きもち
出家
なぐもを
いづこも
たれど
秋の夕ぐれ

とりてあり
四季とうさ
て髪形と
ぶ人のまて
んゆくこと
と稼んする
人ま秋まち
んざしもの
金ちりか
りくまづく

大網玄蕃信

ゆきさ後ハ
門田ゆ
いるど
とぼまと
あり
秋まろ屋ふ
秋の稼ぎそふく

源俊頼朝臣
うかりける
人を
はつせの
山おろし
はげしかれ
とは
いのらぬものを

小野
小町
藤原基俊
契をば
さぞもせじ
命を
いのちにて
あるにしも
あらぬ世なれば

教訓抄

[illegible]

法性寺入道前関白太政大臣

[illegible]

崇徳院

[illegible]

瀬をはやみ

[illegible]

滝川の

[illegible]

侍賢院坂川

後徳大寺左大臣

きふそくしゃも
皆保づくの
ものわれで
まつ瓜うりに
うと初も河
とものくらう
われとらぶ
ごとうり狐
ざこのよま
とれしかど

道閑法師
わたのしまぶ
さても
命を
なのあと
うきうり
きまぬ
なとさうりを

きべうびん人
うゆメてもはと
かまりさて
ちと男性
りへすも
の他人ゆ心
きんなの人寿
でしなのわど
なの表人て
ちもとさん

皇太伝天太子像
世よ井よ
こちらこそ
かうれ
田び
心わく
庶でなくうる

菅原清貫卿
倭恵法師

難波江の
あしのかりねの
一夜
身をつくし
恋てやまんとぞ
思ふ
皇嘉門院別当

式子内親王
玉の緒よ
たえなば
たえね
ながらへば
忍ぶる
ことの
よわりもぞする

殿閣院宮

人どもわれ
をれが人代
ろそのうちに
住吉のきの神
りうこれ世の
中はあり
なり人のの
まとゆ時を
うぐもしう人
をとりよま

二條院讃岐
もう袖をし
ほれて
見てぬる
沖つ
人ぞ
しらねぬ

婦をれ
ひとりて
出る彩小釈し
男夫の
人くるうり
ぐ帰れば夫
が別かけや
いふ涙せ
わぐても人の
まもなれ

鎌倉右大臣
世中を
つねも
がもな
渚こぐ
蜑の小舟の
はてのもの

参議雅經
こゝろよき
心のあれ
風さよ
ふけく
あまのさと
けむく
衣うりあり

前大僧正慈圓
わたりあぐく
うれ世れ
民うり
世ふ
いづ世
すみ
わろ袖

道茶大政大臣

檀中納言定家

三位家淫
風俗
小川
多くれを
みるだに
夏は
とのこと

跡見学園女子大学短期大学部図書館
☎03(3943)1368
1001819208

君ぞこの　ひとこと　かくべき
花も　うらぐも　万代や　雲じ

色紙短冊すき方書様

色紙短冊すき方書様

色紙いろ〳〵ありと雖も今世とも君と称する式　後成
短冊と短冊とを出ハ色紙ハ形ハ一分ハ形を出ハ色紙ハ形ハ
色紙ハ短冊ハ出来ハ色紙ハ古く奇ハ短冊と出色紙ハ古く奇
ぞろ出かり

寛政十三年辛酉正月吉日

書林　御江戸常磐橋御門本町筋十九丁目通油町
鶴屋喜右衛門